

尚綱短大

○村田陽子

遠藤時子

北海道教育大

斉藤祥子

目的 古代から我々祖先の衣生活を支えてきた最も重要な植物に麻類がある。その苧は糸や布として家族の衣服にする他に調布として貢納され、古代国家の経済を支えてきた。また綱索、網、袋、畳糸、小は鼻緒に至るまで麻なくして生活は存立しなかった。明治以降、木綿の急激な普及によって麻類は衣料の王座を追われ、特に大麻は戦後、その麻薬効果が知られてからは栽培が禁止された。また日常衣服の洋装化に伴い苧麻等の需要も激減し、衣服原料としての麻類、特に大麻の復活はあり得ない。この麻類の終焉に当り、その利用の全貌を明らかにし、記録することを目的として今回も岩手県について報告する。

方法 各県毎に市町村史・誌より麻類および衣料原料に関する記述を収集、整理し、特色のある地域については実態調査を行う。

結果 岩手県の麻について収集した資料中、極めて特色のある2地区の実態調査を行った。その1は下閉伊郡川井村で「川井村郷土誌」に、大麻は雌雄別々に抜取、処理とあり同村4地区を尋ねて糺したが、そのような伝承を知らず、雌雄の別も不明で、種麻用に残しておく分との混同ではないかとのことであった。また他の地区は西磐井郡花泉町で「花泉町史」の工芸作物と加工品として大麻(苧麻)の項に良質の白麻を多産とあったので町内4地区を尋ねた。結果、この地区の麻の原料は大麻が殆んどで苧麻のことは不明であった。また大麻は栽培せず他地区から原料を購入し苧にする加工のみ行うもので、この地は町名の示す通り水質が良好で、上質の麻苧生産の適地であったことを確認した。